

子どもたちに本と触れ合う機会を



9月2日(水)に公益財団法人だいしん緑化文化振興財団(大垣市)より町内小学校に対して児童用図書(20万円相当)を寄贈していただきました。同財団は、公共施設の緑化推進や健全で文化的な生活環境の創造、芸術文化の振興発展を目的として活動しています。

栗田順公理事長は「時代とともに教育の考え方や子どもたちを取り巻く環境も大きく変化しています。AIが使われる世の中になっても、本を読むことは今も変わらず大切なことですので、これからも子どもたちに本と触れ合う機会を提供していきたいです」と寄附に込められた思いを話しました。寄贈いただいた図書は町内小学校に設置し、子どもたちの視野を広げるために役立てます。

のびのびと過ごせる学校とは



より良い教育環境の実現に向け、学校再編に子どもたちの意見を反映させるため、8月7日(金)に町役場4階大会議室において、こども意見交換会が開催されました。町内在住の小中学生に加え、町立小学校再編準備委員会の安田和夫委員長が教授を務める岐阜聖徳学園大学の学生も進行役として参加し、先進事例を参考にしながら4班に分かれて議論しました。

「のびのびと過ごせる学校について考えよう!」をテーマとして意見交換が行われ、「勉強専用の図書館が欲しい」や「芝生の上やデッキテラスなど、外で給食を食べられるようにしてほしい」など、自分たちが理想とする学校を作るため、たくさんのアイデアが発表されました。

産業化と近代化を進めた時代の先駆者



8月16日(日)に養老駅北側にある立川勇次郎顕彰碑前において、顕彰祭(顕彰会主催)が行われました。地域住民や遺族、立川勇次郎が創業した養老鉄道株式会社およびビデン株式会社の関係者らが参加し、西濃地域の産業化と近代化を進めた実業家としての功績をたたえ、遺徳をしのびました。

また、ひ孫である立川元彦さんはあいさつの中で「没後100年に合わせ、昨年に記念誌『立川勇次郎の足跡を訪ねて』を出版した後にも、さらに詳しく知りたいという思いから、全国にあるゆかりの地を訪ね、調査を進めました。皆さまにも興味を持っていただき、色々と知ってもらえると嬉しく思います」と話しました。

治水事業の先覚者



9月1日(火)に佐竹直太郎翁顕彰碑前(高田地内)において顕彰祭(顕彰会主催)が行われ、地域住民や遺族らが参加し、その功績をたたえました。佐竹直太郎は、かつて勾配が緩やかなために水量が増すと逆流し、水害が絶えなかった牧田川の改修工事に尽力し、水害を激減させるなど、地域の治水事業に大きな功績を残しました。

顕彰会の会長である川地憲元町長は祭文奏上の中で「佐竹直太郎翁の偉大なる遺徳を偲びつつ、災害のないまちづくりを進め、当町の更なる発展に邁進していきます」と誓い、地元産業の発展や道路整備の促進、河川改修事業などに深い理解を示し、郷土のために献身的に取り組んだ“志”をたたえました。